

家和睦をん事を讀む十一年傳ふ志をも
是を評語とす。後菊光大病と傳ふ。武任を
振奮對面の上宮上家の系畠を形け婦子
被程方丈若年の月羽翼の幼子形ふんと
讀ふ。羽鳥山智姫院御堂といふ。出羽が當地よ
りて山形へ電報の事延引あり。さよー
讀みれた武任承引なく。良等并連光城を
菊光麻所へ招入。系畠を附屬とす。年笑を
會て双戴と義光底下に隠し。至る。大刀
を以て切害と稱。從教案廣るに於て是討

は事菊光物語より見へり。

拙書に伝長公より出羽守と尾藤を下
さむといふ説謬もや。是日ハ勅任之伝長公
私に命をさむ。さや菊光薨逝以来の系畠
亦此上説は傳ふれ。故出羽の是日ハ子孫
に事をも給ふ。是を此尾藤有り。さ
や。その後 天子へ奏進ありて。是日ハ任
をさむれ。なり。一。其年記に見る。氏家
尾張といひ。ハ續太平記。玉人の内は足
傳。氏家の末もや。尾藤の記。今知人なり。